クラス NO	511	担当教員	丸山 優
テーマ	福祉社会の経済学		
著書・論文 研究課題等	研究課題等:① 経済政策・社会政策の基準を明らかにする厚生経済学 ② ニュービジネス創出の実態調査 （近年は特にサービス産業のイノベーションに関する調査に力を入れている）		

ゼミ概要

① 内容・方法

君たちは「福祉」welfare という言葉で何を連想するか？個々人の順調な生活か、それとも困難を抱えた人を援助する具体的な仕事か？おそらく後者であろうが、経済学では前者である。そして前者の実体をなすのは、アクセスできる財・サービス全般であり、それを決める個人の能力と自由である。両者の開きは甚だしいが、幸か不幸か、最近の社会福祉構造改革によって両者はぐっと近づいた。「福祉の仕事」につく人からサービスの提供を受ける人が、選択の自由を持つ能動的な主体（少なくとも消費者！）として位置づけられるようになったからである。しかし、実態はこれとは程遠い。そこで本ゼミでは、「福祉」の資金調達者、提供者、利用者の相互関係に焦点を絞って、次の 4 テーマに順次取り組み、福祉社会建設の今後の方向を明らかにしたい。もちろん、市場経済の動きをしっかりと視野に入れない限り、福祉社会について語ることはできないが。

1．日本における少子化の進展、その原因と解決策。
2．日本と世界の年金問題。
3．日本における医療・介護サービス。
4．サービス産業の停滞を破るイノベーション。（「福祉の仕事」を含む）

② 履修上の注意

1．厚生経済学と付き合い、個人と社会の福祉＝順調な生活（well-being）の条件を考えたい人が望ましい。
2．「福祉の仕事」そのものよりもそれの発展を支える仕事（例えば銀行・証券会社などの仕事）をしたいと思っている人が望ましい。もちろん、学生時代にできるだけボランティア活動をしたい人は大歓迎だが。
3．経済発展と「生活の質」の向上を両立させる新規事業の実態を調査したい人が望ましい。

使用テキスト

橘木俊詔『格差社会　何が問題なのか』岩波新書、2006.
広井良典『持続可能な福祉社会「もうひとつの日本」の構想』ちくま新書、2006.

他は順次指示したい。

担当教員からのメッセージ

社会の少数派に対する「暖かい心」のある青年がいま努めなければならないのは、現実を動かすのに必要な「さめた頭」を鍛えることです。暖かい心とさめた頭の両方を一緒に磨きましょう。